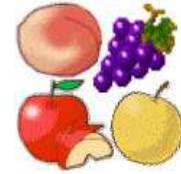




# 平成25年度 果樹情報 第3号

(平成25年4月23日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (4月中旬：果樹研究所)

4月中旬の平均気温は3半旬が8.7℃で平年より2.0℃低く、4半旬が10.2℃で平年より1.3℃低い状況でした。この期間の降水量は7.0mmで平年の22%でした。

## 2 土壌の水分状況 (4月21日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが1.7、深さ40cmが1.7、深さ60cmが1.9で、適湿条件の範囲です。

## 3 発育状況 (果樹研究所)

- (1) もも「あかつき」の開花始めは、平年より2日早く、満開は3日早い状況でした。
- (2) なし「幸水」の開花始めは、平年より4日早い状況でした。
- (3) りんごは近日中に開花する予定です。
- (4) おうとう「佐藤錦」の開花始めは、平年より3日早い状況でした。
- (5) ぶどう「巨峰」発芽は、平年より1日早い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月18日	4月19日	4月28日	未	4月25日	5月2日

注) 平年は1981～2010年の平均値。

表2 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月13日	4月15日	4月24日	4月18日	4月21日	4月29日
	ゆうぞら	4月14日	4月16日	4月24日	4月19日	4月21日	4月28日
なし	幸水	4月19日	4月23日	4月28日	未	4月27日	5月1日
	豊水	4月15日	4月19日	4月25日	4月22日	4月24日	4月29日
りんご	つがる	未	4月26日	5月1日	未	5月1日	5月4日
	ふじ	未	4月27日	5月1日	未	5月1日	5月4日
おうとう	佐藤錦	4月16日	4月19日	4月25日	未	4月25日	4月29日

注) 平年は1981～2010年 (オウトウは1994～2010年) の平均値。

## 4 開花予測 (果樹研究所)

今後の気温が平年並みに経過した場合、りんご「ふじ」の開花始めは4月25日頃で平年より2日早いと予測されています。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温推移に注意しましょう。

表3 開花予測日

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
りんご	ふじ	5月1日	4月27日	4月25日	4月24日	4月27日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981～2010年の平均値。

### 東北地方1か月予報(仙台区気象台 平成25年4月19日発表)より

今後の気温経過は、1週目（4月20日～4月26日）は平年より低い確率が60%、2週目（4月27日～5月3日）は平年並の確率が40%、3～4週目（5月4日～5月17日）は平年並の確率が40%となっています。

## 5 栽培上の留意点

### (1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が低く凍霜害を受けやすいので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底しましょう。また、下草が伸びていると園地内が冷えやすくなるので、4月中旬以降はこまめに5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげのおそれあり）。空気や土壌が乾燥している場合は、適宜かん水を実施し土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下を助長するため）。

なお、本年は、すでに凍霜害による被害が発生している地域があります。被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保に努めましょう。

### (2) 人工受粉

開花期が低温や強風、降水（雪）による湿潤条件、乾燥条件で経過すると結実が劣る場合があるので、このような条件下に置かれた場合は、人工受粉をより丁寧に行いましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合には事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数とします。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用してください。

凍霜害の被害を受けた花から人工受粉用の花粉を採取した場合は、発芽率を確認して利用しましょう。

### 作物別凍霜害等気象災害防止対策

農業振興課・農林地再生対策室ホームページに掲載していますので、御活用ください。

URL：[http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/tousougai\\_taisaku\\_h250328.pdf](http://wwwcms.pref.fukushima.jp/download/1/tousougai_taisaku_h250328.pdf)

### 果樹の現在の生育ステージ

農業振興課・農林地再生対策室ホームページに、農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL：[http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp\\_portal/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=22752#tokubetsuijyouhou](http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#tokubetsuijyouhou)

## 6 病虫害防除上の留意点

### (1) 病 害

#### ア りんご黒星病、うどんこ病

果樹研究所の慣行防除「紅玉」では4月11日にうどんこ病の発生が確認されましたが、発生の割合は0.1%未満と平年の発病枝率（6.9%）より少ない状況でした。しかし開花期前後はうどんこ病および黒星病の重点防除時期に当たるため、開花直前にE B I 剤のいずれかを散布し被害防止に努めてください。

#### イ ももせん孔細菌病

第一次伝染源の春型枝病斑は開花期以降に発生し、降雨に伴って病原菌が分散し新梢葉に感染します。

昨年発生が認められた園では、落花直後にせん孔細菌病防除剤を必ず散布し、初期感染防止に努めましょう。また、発生を最小限に抑えるために春型枝病斑は見つけしだい必ずせん

除しましょう。

ウ なし黒星病

開花前の花托および開花後約2週間までの幼果は、本病に対する感受性が非常に高く、重要防除時期に当たります。

そのため、開花前後に本病に効果が高いE B I剤を散布間隔が10日以上開かないよう散布しましょう。なお、天候の影響等で散布間隔が10日以上開くことが予想される場合には、受粉が十分行われた後（満開5日後頃）、落花を待たずに開花後の防除を行いましょう。また、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけしだい必ず除去してください。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

今後、気温が平年並みに推移した場合、モモハモグリガの第1世代幼虫の防除適期は4月6半旬～5月1半旬と推察されます。ミツバチ等の導入園では巣箱回収後、速やかに防除を行いましょう。

イ ハマキムシ類

今後、気温が平年並みに推移した場合、リンゴモンハマキ越冬世代成虫の誘殺盛期は5月6半旬と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると推察されます。

複合交信かく乱剤はハマキムシ類越冬世代成虫の発生前である5月3半旬頃までに設置しましょう。

ウ その他鱗翅目害虫

ナシヒメシクイのフェロモントラップによる初誘殺日は4月10日であり、ほぼ平年並の状況でした（平年値は4月9日）。例年発生が多い園地では、防除時期が遅くならないように5月2半旬までに防除を実施しましょう。

キンモンホソガもこれに準じて防除を実施してください。

エ リンゴハダニ

今後、気温が平年並みに推移した場合、リンゴハダニのふ化盛期は4月5半旬頃であると予測されます。越冬卵密度の高い園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

表4 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定

(演算方法は三角法、平成25年4月21日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	4月22日	4月27日	5月22日	6月3日
平年並み	4月23日	4月30日	5月27日	6月9日
2℃低い	4月24日	5月3日	6月3日	6月18日

起算日：3月1日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。